

オオハムとシロエリオオハム Part 2 の識別

榎本秀和（鴻巣市）

◇はじめに

今年2月25日、浦和市(当時)下山口新田の調整池においてシロエリオオハム(以下、シロエリと略記する)が記録された。私がこのことを知ったのは、3月23日付毎日新聞朝刊によってである。

同新聞に掲載されている写真はあまりシャープなものではないが、脇腹後部の白斑が見られず、さらに喉にはぼんやりながら線のあることが見て取れ、シロエリとした同定は妥当なものと考えている。

◇識別のポイント

私は、支部報『しらこぼと』155号(1997年3月号)掲載の「オオハムとシロエリオオハムの識別」という一文において、両種の識別ポイントを文献から引用し紹介した。

すなわち、オオハムには夏羽・冬羽とも脇腹後部に大きな白斑があるが、シロエリにはなく、またシロエリの冬羽では喉のところに黒褐色の線が出るが、オオハムには出ない、ということによる識別である。

本稿はその続編として、実際の観察の結果と照合しながら、両種の識別ポイントをあらためて点検することにする。

||||||| 識別ポイント1 |||

喉の線(chinstrap)

私がこれを実際に目にしたのは、安孫子市

鳥の博物館に展示されている剥製によってである。野外ではちょっと観察しづらい部位に思われた。

この4月、茨城県波崎で、間近にシロエリ3羽を観察する機会に恵まれた。そのうちの1羽は喉にはっきり線が出ていたが、2羽はかすかに見える程度でしかなかった。個体差もあるようだし、幼羽でははっきりしないということもあるので注意を要する。

||||||| 識別ポイント2 |||

脇腹後部の白斑

野外識別では、これがいちばん確実な識別ポイントではないかと思われる。この大きな白斑が確認できれば、夏羽・冬羽を問わずオオハムと考えてよい。

問題はこの逆のケース。つまり白斑が出ないということだけを根拠としてシロエリと断定して差し支えないのかどうか。

この点に関しては、同好の士の間でも慎重論があるが、私の考えでは「可」としたい。気象・海象の状況にもよるだろうが、穏やかな波間に浮かぶ姿を観察した場合などで、白斑がなければシロエリでよいと思っている。

ある個体を500mほど離れた場所から見て、白斑がないのでシロエリと判断したが、その後、近寄って喉の線も確認でき、間違いなくシロエリだったことも実際にあった。



写真① シロエリオオハム成鳥冬羽



写真② シロエリオオハム幼羽

||||||| 識別ポイント3 |||

下尾筒基部の線 (vent strap)

シロエリには下尾筒基部に黒褐色の線があるが、オオハムにはない。このことを不覚にも私は知らなかった。ある船上で、同好の先達から伺って初めて知った話である。

下尾筒基部となると、通常は見えない部分であるが、腹を見せて羽づくろいをしているときとか、頭上を低く飛んだときなどには見ることができるかもしれない。

この識別ポイントについて文献的な裏付けを搜したところ、『BIRDER』1997年2月号掲載の「アビ類観察の楽しみ」(木村裕一氏)にも記述が見られた。よく読んでいればわかっていたことなのに、またしても自ら不勉強を証明してしまった。

◇船上からの観察

これまでの経験に基づき、気がついたことを述べておきたい。

【飛び方】

首も足も伸ばして、一定の高さを水平にまっすぐ飛ぶ。例が適切でないかもしれないが、米軍の巡航ミサイル「トマホーク」を連想させる飛行姿勢である。

目が慣れてくると、はるか遠くを飛ぶ姿でも、それが少なくともアビ類であることはわかるようになる。

【泳ぎ方・逃げ方】

航路での探鳥経験がある方はよくわかると思うのだが、海鳥が海面に降りて休んでいるようなとき、そこへ船がさしかかると、普通は飛び立って逃げる。ところが、オオハムやシロエリは泳いで逃げることもある(アビやハシジロアビとは、こういう場面に出くわし



写真③ シロエリオオハム成鳥夏羽

たことがないが、同様であろうか)。

翼をばたつかせ、足で海面を蹴り、一見、飛び立つための助走のような動作で、そのまま何百mも飛ばずに逃げて行く。私は、その光景を「泳いで逃げる」と表現したい。足踏み式ボートを漕ぐ姿に例えてもよい。

◇おわりに

気になるのは冒頭に述べた新聞の記事のこと。「太平洋側では珍しい…」というものが、太平洋側にだってシロエリは普通にいる。何しろ日本で見られるアビ類でいちばん多いのはシロエリと言われているのにネ。

写真① シロエリオオハム成鳥冬羽

喉の線がはっきりしている個体。成鳥の目の色はルビー色。

(2001年5月 茨城県鹿島郡波崎町 撮影/長谷部謙二)

写真② シロエリオオハム幼羽

顔から首にかけての白黒部分の境界がぼんやりしており、目が暗色。背中には褐色の濃淡の斑模様が見られる。

(2000年12月 静岡県沼津市 撮影/菱沼一充)

写真③ シロエリオオハム成鳥夏羽

この個体はオオハムと同定されていたが、現在の知見に基づけばシロエリである。

(1989年5月 石川県輪島市舳倉島 撮影/北川慎一)

写真④ ハシジロアビ成鳥夏羽

この春、多くのバードウォッチャーを魅了した個体。本稿とは直接関係ないが…。

(2001年5月 茨城県鹿島郡波崎町 撮影/長谷部謙二)



写真④ ハシジロアビ成鳥夏羽